

2009年度事業総括報告

社団法人 神奈川県理学療法士会

2009年度 会長 神内 擴行 (横浜リハビリテーション専門学校)

士会会員が2000名を越えた、とニュース編集部員から記念すべき写真を取られて、はや5年が経ち、今年度(2010年度)は、会員数も3000名を優に超えることが確定的となりました。本会の使命は、この会員の急増・若返りに伴い、会員の質を担保するとともに、理学療法士の立場と権利を確保しながら、神奈川県民の健康・医療・福祉・介護の分野に寄与すること、であると考えております。

昨年度は暗中模索の活動ではありましたが、事務局重点事業の公益法人検討につきましては委員会より報告を受け、公益法人化を推進することで先日の総会にて承認をいただきました。また、会員カード普及推進事業につきましては、2010年3月の段階で約70%を達成いたしました。更なる普及率の向上が望まれます。

学術局関係では、第49回日本理学療法学会の誘致活動が実を結び、協会での承認を得ることが出来ました。今後は、会員一同が結束を固め、学会の成功に向けてご準備をお願いしたいと思います。さらに、新人教育プログラム履修のための症例報告Ⅲの発表や学会報告が定着し、履修件数が飛躍的に増加いたしました。協会の生涯学習プログラム履修支援体制は今後も継続しなければならない事業と認識しております。

社会局関係では、理学療法フェスタを初めとする社会局事業の再検討を行い、多くの新しいアイデアを検討してまいりました。今年度の活動に反映されるものと期待しております。また、他団体との共同による講習会・研修会等の開催、他団体との連合・連絡組織への参加・協力等を行い、この連携事業が、社会における理学療法・理学療法士の理解につながるものと確信しています。

士会活動における問題点として、上記活動が必ずしも会員各位の目に触れている訳ではないので、特に若い会員の方々に会の活動に対して十分にご理解を得られていない、とのご意見も聞かれますことにつきましては、深く反省すべき点であると認識しております。今後はさらに士会全体の活動性を高めて、多くの会員参加と会員意識を高揚させる工夫も検討課題であると思っています。

以上、士会活動全般の総括を述べましたが、今年度は士会役員改選の年であり、会長を初めとする数人の役員が交代し、新役員体制で新年度を迎えます。昨年度の事業運営が大過なく進められましたのも、会員各位の皆様と役員の方々のご理解とご協力の賜物と深く感謝するとともに、新役員体制に対しましても、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

事務局

常任理事 林 克郎 (横浜リハビリテーション専門学校)
理事 大槻 かおる (大和市立病院)
理事 広瀬 好郎 (七沢リハビリテーション病院脳血管センター)

事務局

事務局長 山口 泰成 (森の里病院)
事務局員 石川 久子
小野田 誠子
松岡 明子

事務所概要

所在地 横浜市西区楠町4番地12
土地 1488.41 m² 所有権の割合 12,400/673,931
所有権 敷地権割合に応じた共同所有
建物 2001年12月完成 11階建てマンションの11階部分の1階部分
占有面積 124.00 m² 所有権 区分所有

主な通常事業は以下のとおりです。

- 1, 入退会、転入出等会員管理事務
平成21年度1年間の会員異動実績
入会334名 転入88名 転出102名 県内異動284名 休会45名 復会13名 退会26名
- 2, 各種文書收受
公文書等発送管理
関係機関、団体等からの文書の收受、保管および役員への転送連絡
公文書の作成、発送、管理、事務文書の作成
ニュース、会報等会員向刊行物の発送管理
- 3, 総会、理事会の開催事務
- 4, 経理事務
現金出納、入出金管理、帳簿・各種伝票等諸帳票の管理
- 5, 会員管理、ホームページ管理 (メルマガ含む)・更新の一部、会員からの問い合わせなど
- 6, 事務局会議の開催 (平成21年度より開催)
2010年1月21日開催 場所：事務局
2010年3月11日開催 場所：事務局

総務部

部長 角掛洋行 (横須賀市立市民病院)
部員 岸 昌親 (横須賀市立市民病院)
大島陽子 (横須賀市立市民病院)

1. 新人オリエンテーションの運営を行った。
2. 総会の運営を行った。
第26回通常総会 (平成21年6月21日神奈川県立保健福祉大学に於いて)
第27回通常総会 (平成22年3月14日鎌倉芸術館に於いて)

総務部書記係

係長 齊藤 和男 (新戸塚病院)
係員 田中 さえ子 (けいゆう病院)

1. 常任理事会の議事録作成
2. 理事会の議事録作成
3. 総会の議事録作成

総務部新人オリエンテーション係

係長 木下 尚久 (介護老人保健施設つくしの里)
係員 金井 亜沙美 (介護老人保健施設つくしの里)
黒崎 恵美 (ソレイユ川崎)

1. 平成 21 年度新人オリエンテーションの開催
日 時 : 2009 年 5 月 10 日 (日) 13:00~17:00
場 所 : 神奈川県立保健福祉大学 1 階講堂
内 容 : 13:00~14:00 講演会「テクニカルリーズニング」
講師 : 神奈川県立保健福祉大学 理学療法専攻 内田賢一先生
14:20~14:30 会長挨拶 (会長 : 神内擴行)
新人教育プログラムガイダンス (生涯学習部 : 上杉)
発達障害支援部活動内容 (発達障害支援部 : 平井)
14:30~16:45 入会等事務手続き (総務部長 : 角掛、他)

参加者 : 272 名 (男 145 名 女 127 名)

ニュース編集部

部長 坪内 敬典 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校)
部員 田中 一秀 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校)
水野 智明 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校)
赤岡 麻里 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校)
石川 秀太 (湘南東部総合病院)

1. 定期的にニュース編集会議を行った。
2. 構成内容の検討を行った。
3. 年間特集予定を立案した。
4. 次年度の引継を行った。
5. ニュースの発行を行った。(5月、7月、9月、11月、1月、3月)

ウェブサイト管理部

部長 林 克郎 (横浜リハビリテーション専門学校)
部員 山口 泰成 (森の里病院)
宮本 謙司 (青葉さわい病院)
中野 靖士 (森の里病院)
松岡 明子 (事務局)

平成 21 年度は、ホームページ、リニューアルより半年が過ぎ、安定した運営ができていた。実績については、リニューアル後の 6 ヶ月との比較になるが、活発に運用されていた。

1. ホームページの運用実績、(昨年度リニューアル後 6 ヶ月間の実績)
 - ・ アクセスページ数 : 363,789 件 (166,600 件)
 - ・ 1 日あたりのアクセスページ数 : 約 996 件/日 (約 80 件/日)
 - ・ 情報掲載数 : 新規 136 件 (40 件)
 - ・ 情報掲載依頼数 (ホームページから) : 37 件 (13 件)
 - ・ 講習会事前申込利用数 : 14 件 (12 件)
 - ・ 問合せ数 (ホームページから) : 152 件 (47 件)
2. メルマガの運用実績、(昨年度 5/21~3/31)
 - ・ 発行数 : 33 回、164-197 号 (20 回、144 号-163 号)
 - ・ 登録者数 : 403 名 (316 名)

社 会 局

常任理事 炭 孝昭 (太田総合病院)
理事 惣田 洋 (横浜南共済病院)
理事 中村 さち子 (平塚市民病院)
理事 露木 昭彰 (足柄リハビリテーションサービス)

中途障害支援部

部長 曾根 理 (鶴巻温泉病院)
副部長 松本 肇 (鶴巻温泉病院)
部員 赤木 昭博 (東海大学病院)
前田 大助 (間中病院)
芹田 透 (くらた病院)
中川 直子 (鶴巻温泉病院)

1. 事業名：関連職種研修会 “テーマ” 呼吸介助の理論と実際”
対象：訪問看護に従事する准看護師・看護師・助産師 40名
内容：講義・実技練習
開催日：2009年10月4日(日) 場所：ウィリング横浜
参加費：¥2,000- 参加者数：40名うち看護師等は38名
2. 部会の開催：全3回
6/17：関連職種研修会の内容確認
10/4：関連職種研修会後の反省・総括
10/20：平成22年度事業計画について

発達障害支援部

部長 平井孝明 (神奈川県立こども医療センター)
部員 佐藤隆一 (小田原市立病院)
斉藤英博 (横浜市南部地域療育センター)
今井真紀 (神奈川県立総合療育相談センター)
福原一郎 (横浜療育医療センター)
高井 藍 (川崎市中部地域療育センター)
木崎 幸 (小さき花の園)
本吉美和 (神奈川県立こども医療センター)

1. 理学療法セミナーの開催
日時：2009年8月30日 13:00~16:00 会場：横浜ラポール 参加者：131名
テーマ：運動障害のあるお子さんと家族のための理学療法セミナー
ーライフステージにおける理学療法士の関わりー
2. 横浜市地域支援事業 (理学療法士巡回相談)
地域作業所に対し巡回健康相談を行い、利用者等の健康の増進を図った。
実施回数：108回
3. 小児理学療法講習会の開催
一般病院、訪問リハビリテーションで勤務されている理学療法士の方、および経験年数の少ない方に小児理学療法の知識・技術を啓蒙した。
日時：2009年12月6日 13:00~16:00 会場：横浜市南部地域療育センター
参加者：40名
4. 県域作業所支援事業
今年度県域作業所よりの依頼申込みは無かった。
5. 理学療法セミナー記録集のまとめ
ホームページ上に掲載する原稿を作成した。
6. 小児理学療法ガイドブックの更新
県内小児理学療法実施施設名称、治療内容、連絡方法をホームページ上で更新する作業を継続する。
7. 地域作業所・グループホーム職員研修
今年度障害者支援センターよりの依頼申込みは無かった。

医療保険部

部長 廣瀬 仁 (太田総合病院)
部員 吉澤 隆治 (総合川崎臨港病院)
富永 潮也 (太田総合病院)

1. 活動報告 部会開催：5回
2. 県士会員からの診療報酬に関する問い合わせ：8件
 - ①施設基準に関して4件 (面積・具備物品・家事用設備・医師配置)
 - ②疾患別リハ区分に関して1件
 - ③労災患者のADL加算に関して1件
 - ④レセの返戻に関して1件
 - ⑤がん患者リハの講習会に関して1件

介護保険部

部長 相川 浩一 (介護老人保健施設アゼリア)
部員 久保木 あずみ (リマイン地域ケアサービス)
大島 奈緒美 (湘南シルバーガーデン)
湯田 修 (足柄リハビリテーションサービス)
前田 玲 (介護老人保健施設さつきの里あつぎ)
浜咲 高 (海老名メディカルサポートセンター)

1. 介護保険部講習会
テーマ：理学療法士のための介護報酬の考え方
講師：有) 足柄リハビリテーションサービス 露木昭彰氏
日時：2009年5月31日(日) 13:30~16:20
場所：ウィリング横浜 対象：理学療法士 参加数：32名
2. 理学療法月間公開講座「介護予防キャラバン」
テーマ：サクセスフルエイジングー健やかに老いるー
講師：北里大学医療衛生学部 柴喜崇氏
日時：2009年7月12日(日) 14:00~15:30
場所：介護老人保健施設アゼリア 対象：神奈川県民 参加数：42名
3. 第17回PT/OT地域ケアネットワーク合同研究会
主催：社団法人神奈川県理学療法士会・一般社団法人神奈川県作業療法士会
テーマ：理学療法士/作業療法士の可能性
 - ①訪問リハビリテーションステーション(仮称)への取り組み
講師 社)日本理学療法士協会 職能局長 森本榮氏
 - ②広がる職域(企業で活躍している理学療法士/作業療法士の講義)
「理学療法士によるリハビリ&コンディショニングー自費リハビリと介護保険によるサービスー」
講師：フィジオセンター 理学療法士 大田幸作氏
「企業に勤める作業療法士の役割」
講師：パナソニック電工エイジフリーショップス株式会社 作業療法士 船谷俊彰氏
日時：2010年2月14日(日) 10:00~16:10
対象：理学療法士・作業療法士 参加数：88名(理学療法士53名・作業療法士35名)
4. 介護保険に関する問い合わせの対応
制度・運営に関すること 2件
5. 部会開催：計4回
・介護保険部部会 1回 ・(社)作業療法士会との合同部会3回

環境支援部

部長 長澤 充城子 (川崎市れいんぼう川崎)
会計 数野 理恵 (川崎市れいんぼう川崎)
書記 池谷 充弘 (川崎市北部リハビリテーションセンター)
部員 長尾 亜紀 (自宅)
齋藤 崇志 (訪問看護リハビリテーションネットワーク)

1. 研修会企画のため、部会を5回開催した。

2. 2回の講習会を企画し運営・開催した。

(1) 研修会

日時：2009年9月5日(土) 14:00～16:30

テーマ：～住宅改修に関する知識を深めよう～

講師：浅井悦男氏(1級建築士) 助手：榎本大祐氏

会場：ウィリング横浜5階 参加者：52名

(2) 第2回福祉用具スキルアップ研修 主催：(社)神奈川県理学療法士会・神奈川県作業療法士会

会場：ウィリング横浜・横浜リハビリテーション専門学校

対象：神奈川県理学療法士会会員 神奈川県作業療法士会会員

参加者：41名(PT15名・OT26名) 修了者数PT13名

日時：2009年10月18日(土) 9:30～17:00

ポジショニング(良肢位・臥位・体圧分散)・起居動作

講師：隆島研吾氏(神奈川県立保健福祉大学)

平田学氏(神奈川県リハビリテーション病院)

露木昭影氏(有限会社 足柄リハビリテーションサービス)

日時：2009年10月30日(土) 9:30～17:00

座位(シーティング)・車いす移動

講師：高田靖子氏(川崎市北部リハビリテーションセンター)

田中秀和氏(横浜共生会 横浜らいず)

佐藤文子氏(横浜市総合リハビリテーションセンター)

日時：2009年11月1日(日) 9:30～16:10

環境整備・各種制度

講師：藤井智氏(横浜市総合リハビリテーションセンター)

大竹雅子氏(横浜市総合リハビリテーションセンター)

渡邊慎一氏(横浜市総合リハビリテーションセンター)

スポーツ支援・健康増進部

部長 渡邊 裕之(北里大学医療衛生学部)

部員 久保 雅昭(横浜総合病院)

鈴木 仁人(横浜市スポーツ医科学センター)

石井 斉(日本鋼管病院)

福島 努(平塚市民病院)

島田 周輔(昭和大学藤が丘病院)

1. スポーツ競技会への医学的支援

(1) 第91回全国高等学校野球選手権神奈川大会(7月27日～7月30日)においてメディカルサポートを実施した。準決勝以上6試合に対し、理学療法士のべ38名を派遣した。予備日(待機)を含め、のべ65名がメディカルサポートに参加した。

(2) 第40回関東中学校サッカー大会が神奈川県(8月7日～8月10日)にて開催され、6会場18試合においてのべ29名の理学療法士を大会サポートに派遣した。

(3) 神奈川県の友好姉妹都市である中国遼寧省と韓国京畿道とのスポーツ交流として行っている三県省道スポーツ交流事業(8月11日～8月28日)において、練習および大会サポートとして理学療法士2名を派遣した。全日程においてのべ23名の選手に処置をおこなった。

2. 講演

(1) 第90回全国高校野球選手権神奈川大会抽選会場にて、高校生約400名に対し傷害ならびに熱中症予防の講演を実施した。

3. 技術講習会

(1) 第1回勉強会

日時：6月4日 会場：北里大学病院 参加者：24名

内容：スポーツ活動時における外傷と応急処置について。

(2) 第2回勉強会(2会場で実施)

日時：7月10日、7月17日 会場：日本鋼管病院(7/10)、東芝林間病院(7/17)

内容：高校野球メディカルサポート時に実施するストレッチについて。

参加者：33名(7/10)、35名(7/17)

(3) 第3回勉強会

日時：1月23日 会場：日本鋼管病院 参加者：47名

内容：スポーツ傷害の理学療法（講師：園部俊晴）。

4. その他

- (1) メディカルサポート用に平成21年度版ストレッチマニュアルを作成した。

公益事業推進部

部長 相馬光一（神奈川県リハビリテーション病院）
部員：山口 和久（横浜栄共済病院）
山村 孝司（横須賀共済病院）
中川 淳一郎（横浜市総合リハビリテーションセンター）
田中 好実（横浜市総合リハビリテーションセンター）
平塚 沙織（済生会横浜市東部病院）
安西 加奈子（川崎幸病院）
石井 大輔（川崎幸病院）
岡野 朋恵（神奈川県リハビリテーション病院）
前田 瞳（神奈川県リハビリテーション病院）

県民に対し理学療法の普及・啓発を行なった。理学療法フェスタで普及・啓発のためポスター・ちらしを作製し、県内関連施設への告知（病院、施設、学校など）を行なった。当日、PRのためにPT協会作製のパンフレット・PT あ！・うちわと神奈川県士会作製のリーフレット・士会名入りクリアファイル・修正テープを来場者に配布した。PRのために必要な配布物（リーフレット、士会名入りのクリアファイルと修正テープ）と理学療法フェスタの幟を作製した。

1. 理学療法フェスタ(2009年7月1日-8月31日)

- (1) 公開講座 介護予防キャラバン 日時：7月12日（日）13：30-15：00
企画運営は介護保険部が担当（詳細は介護保険部を参照）
- (2) ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2009ブース展示
（主催：横浜市リハビリテーション事業団）
日時：2009年7月24日（金）～25日（土） 会場：パシフィコ横浜 来場者数：400名
- (3) スポーツ傷害セミナー
日時：2009年8月1日（土） 13：00-16：00
企画運営はスポーツ支援・健康増進部が担当（詳細はスポーツ支援・健康増進部を参照）
- (4) 公開セミナー
日時：2009年8月2日（日）13：30-16：00 来場者数：96名
会場：国際医療福祉大学小田原保健医療学部
講演：「フェイントに見る運動の不思議」
講師：谷 浩明（国際医療福祉大学小田原保健医療学部理学療法学科 教授）
講演：「楽しい理学療法」
講師：昇 寛（国際医療福祉大学小田原保健医療学部理学療法学科 准教授）
講演：「スポーツで怪我をさせないためにー理学療法士ができることー」
講師：終 幸伸（国際医療福祉大学小田原保健医療学部理学療法学科 准教授）
- (5) 理学療法セミナー
日時：2009年8月30日（日） 13：00-16：00
企画運営は発達障害支援部が担当（詳細は発達障害支援部を参照）
- (6) 理学療法見学会（県内リハビリテーション施設での理学療法業務の見学）
日時・会場：8月6日 日本鋼管病院
8月7日 クローバーホスピタル
8月10日 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
8月14日 地域リハビリテーションセンターふらっと
8月17日 海老名総合病院
8月20日 平塚市民病院
8月21日 総合病院衣笠病院
8月25日 東芝林間病院

内容：ビデオ上映

笑顔をあきらめない：日本理学療法士協会製作

理学療法業務の紹介：日本理学療法士協会編

理学療法業務見学・質疑応答

見学者 28名

- (7) 理学療法相談会
 日時：2009年7月1日(水)～8月31日(月) 会場：理学療法月間事業各会場
2. 健康生活展(すこやかかながわ万人健康ウォーク併催、主管：かながわ健康財団)
 日時：2009年11月7日(土) 会場：赤レンガパーク 来場者 250名
 内容：健康生活展ブース展示(健康相談、運動指導、パネル展示など)
 3. 第6回かながわ地域リハフォーラム ブース展示
 日時：2月13日(土) 会場：かながわ労働プラザ
 内容：PTあ!・リーフレットなどの配布、ポスターの掲示
 4. 神奈川県理学療法士学会
 日時：3月14日(日) 会場：鎌倉芸術館
 内容：PTあ!・リーフレットなどの配布、ポスター・幟の掲示

会員ライフサポート部

部長	萩原 文子	(川崎社会保険病院)
部員	大槻 かおる	(大和市立病院)
	佐藤 幸子	(帝京大学医学部附属溝口病院)
	寺尾 詩子	(聖マリアンナ医科大学病院)
	大島 奈緒美	(湘南シルバーガーデン)
	堀 七湖	(帝京大学医学部附属溝口病院)
	上甲 博美	(聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院)
	三枝 南十	(大和市立病院)
	小川 美緒	(太陽の郷リハビリテーション診療所)

1. 研修会&交流会 開催
 日時：2010年1月17日(日) 10:00～14:00
 テーマ：高齢者の車いすシーティング 会場：神奈川県理学療法士会事務所
 講師：佐藤史子氏(横浜市リハビリテーションセンター)
 参加者：14名(他子供5名)
2. 第28回関東甲信越ブロック理学療法士学会にてポスター発表
 日時：2009年9月13日(日) 会場：群馬県民会館
 演題名：パップTの育児に関する意識調査 演者：堀七湖
3. 県士会ニュースでの活動報告
 テーマ：職場環境を考える 第15報～第20報
4. リカレント教育試行事業(協会からの委託事業)
 急性期・回復期・地域の3コースを企画し、回復期コースに1名の参加者があった
 協力病院：新戸塚病院

学 術 局

常任理事 畠中 泰司 (横浜市立大学附属病院)
理事 松永 篤彦 (北里大学医療衛生学部)
理事 菅原 憲一 (神奈川県立保健福祉大学)
理事 湯田 健二 (海老名総合病院)

学術局

1. 学術サークル助成事業：12サークルへ助成
2. 第28回神奈川県病院学会への協力
学術委員会および学会運営委員の派遣

学術講習部

部 長 太附 広明 (相模原協同病院)
副部長 田治 秀彦 (横浜市総合リハビリテーションセンター)
会 計 寺尾 詩子 (聖マリアンナ医科大学病院)
書 記 小山理恵子 (聖テレジア病院)
書 記 磯貝 仁美 (神奈川リハビリテーション病院)
川上 恵治 (湘南泉病院)
石間伏 彩 (横浜市立脳血管医療センター)
今富 真紀 (横浜市立脳血管医療センター)
藤井 杏美 (昭和大学藤が丘リハビリテーション病院)
萩原 聡 (横浜市東部療育センター)
松丸 純佳 (北里大学病院)
堅田 紘頌 (川崎市立多摩病院)
山本 裕子 (横浜市総合リハビリテーションセンター)
長田 深希 (横浜市総合リハビリテーションセンター)
土屋 辰夫 (神奈川リハビリテーション病院)

1. 講習会およびリーダー研修会企画のため部会を年6回開催した。
2. 4回の講習会を企画し運営・開催した。
3. リーダー研修会を企画し運営・開催した。

第1回講習会

日時：2009年7月26日(日) 会場：神奈川リハビリテーション病院 参加者：66名
テーマ：嚥下障害に対する理学療法
講師：小泉千秋 先生 (神奈川リハビリテーション病院 PT) ほかPT 7名

第2回講習会

日時：2009年11月29日(日) 会場：昭和大学藤が丘病院C棟講堂 参加者：137名
テーマ：患者本位の動作分析、機会の目の生かし方
講師：佐藤春彦 先生 (北里大学医療衛生学部 PT)

第3回講習会

日時：2009年12月13日(日) 会場：横浜市総合リハビリテーションセンター 参加者：123名
テーマ：根拠に基づいたパーキンソン病に対する総合的アプローチ
講師：柴喜崇 先生 (北里大学医療衛生学部 PT)
大森圭貢 先生 (聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 PT)

第4回講習会

日時：2010年1月17日(日) 会場：横浜市総合リハビリテーションセンター 参加者：58名
テーマ：小児の摂食・嚥下指導—発達と指導の基本—
講師：芳賀定 先生 (芳賀デンタルクリニック)

リーダー研修会

日時：2010年2月14日(日) 会場：ウィリング横浜 参加者：41名
テーマ：スタッフを育てるリーダーシップ
講師：諏訪茂樹 先生 (東京女子医科大学)

生涯学習部

部長	川村 博文 (神奈川県立保健福祉大学)
副部長	上杉 上 (横浜市立大学附属病院)
部員	金井 章 (浦賀病院)
	小林 寿絵 (横浜市立大学附属病院)
	小西 聡宏 (横浜市立大学附属病院)
	櫻井 好美 (神奈川県立保健福祉大学)
	佐藤 晴美 (横須賀共済病院)
	島津 尚子 (横浜市立大学附属病院)
	下山 あゆみ (済生会横浜市南部病院)
	高木 峰子 (神奈川県立保健福祉大学)
	堤 美恵 (横浜市立脳血管医療センター)
	中村 大輔 (横浜市立大学附属病院)
	藤浦 達 (横浜市立大学附属市民総合医療センター)
	松宮 美奈 (横浜市立大学附属病院)
	向山 ゆう子 (横浜市立大学附属病院)
	守下 美和 (横浜市立脳血管医療センター)

1. 事業内容

(1) 新人教育プログラム研修会

①1 年次新人教育プログラム研修会

日時：2009年6月21日(日) 9:00～17:50 会場：神奈川県立保健福祉大学 講堂

テーマ・講師・所属：

「1-1. 協会組織と機構(10:00-10:30 総会含む)」・

神奈川県理学療法士会会長 神内擴行先生・横浜リハビリテーション専門学校

「1-2. 職業倫理」・同副会長 隆島研吾先生・神奈川県立保健福祉大学

「1-2. 管理運営」・同副会長 秋田 裕先生・横浜市総合リハビリテーションセンター

「1-3. 地域におけるリハビリテーション」・長澤充城子先生・川崎市いんぽう川崎

「1-4. 理学療法士・作業療法士法および関連法規(介護保険法等)」・

同事務局長 山口泰成先生・森の里病院

「1-6. 症例検討Ⅰ」・永井 聡先生・広瀬整形外科リウマチ科

1-2は「職業倫理」と「管理運営」をあわせて1単位。

参加者：1-1. 289名 1-2. 277名 1-3. 276名 1-4. 277名 1-6. 279名

②2 年次新人教育プログラム研修会

日時：2009年9月6日(日) 9:00-17:50 会場：横浜市立大学へボンホール

テーマ・講師・所属：

「2-1. 理学療法の研究方法論」・菅原憲一先生・神奈川県立保健福祉大学

「2-2. 人間関係」・斎藤幸広先生・藤沢市民病院

「2-3. 生活環境支援」・松葉貴司先生・横浜市総合リハビリテーションセンター

「2-4. 社会の中の理学療法」・鶴見隆正先生・神奈川県立保健福祉大学

「2-6. 症例検討Ⅱ」・澤田明彦先生・七沢リハビリテーション病院脳血管センター

参加者：2-1. 181名 2-2. 184名 2-3. 185名 2-4. 192名 2-6. 175名

③1・3 年次新人教育プログラム研修会

日時：2009年12月6日(日) 9:00-12:10 会場：神奈川県立保健福祉大学 講堂

テーマ・講師・所属：

「3-1. 理学療法士と保険制度」・炭 孝昭先生・太田総合病院

「3-3. 世界の理学療法」・清水ミシェル・アイズマン先生・県立広島大学

参加者：3-1. 201名 3-3. 192名

第3回神奈川県理学療法士会症例検討発表会(症例検討Ⅲ認定対策学術発表会)

会場：神奈川県立保健福祉大学 講堂

日時：平成21年12月6日(日) 13:00-17:50

発表演題：21演題 参加者：115名(症例検討発表者21名含む)

(2) 部会開催と関係会議の出席

①部会開催：4回

②関東甲信越ブロック新人教育担当者会議

会場：群馬県民会館ベイシア文化ホール 5階 501会議室

日時：2009年9月13日(日) 出席者：川村博文・上杉 上

生涯学習部データ管理係

係長 田中 健康 (七沢リハビリテーション病院脳血管センター)
 副係長 澤田 明彦 (七沢リハビリテーション病院脳血管センター)
 係員 熊木 由美子 (横浜市立脳血管医療センター)
 島津 尚子 (横浜市立大学附属病院)

- 平成21年度新人教育プログラムへの枠入れ
- 新人教育プログラム修了書の発行及び発送管理
日本理学療法士会への修了書発行者名簿の報告
- 県士会員新人教育プログラム・データの登録及び入力
名簿入力による受講状況把握
(生涯学習部主催研修会、講習部主催講習会、関東甲信越ブロックPT学会、神奈川県PT学会他)

資料① 2009年度(平成21年度)入会年度別研修、講習出席状況

日付	研修名	テーマ	入会年度												総受講人数
			S61~	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	
2009.05.30	第44回理学療法学会A	新人教育セミナー1年次「地域リハビリテーション」	2	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3	8
2009.05.30	第44回理学療法学会B	新人教育セミナー2年次「人間関係」	3	0	0	0	0	0	1	1	0	1	11	0	17
2009.05.30	第44回理学療法学会C	新人教育セミナー3年次「世界の理学療法」	1	0	0	0	0	0	1	2	1	10	0	0	15
2009.06.21	新人教育プロ1年次研修会	①協会組織・機構 県士会組織②県士会総会出席	4	1	1	1	1	0	0	1	2	5	7	266	289
2009.06.21	新人教育プロ1年次研修会	職業倫理・管理運営	4	1	0	0	1	0	0	1	1	2	3	264	277
2009.06.21	新人教育プロ1年次研修会	地域におけるリハビリテーション	4	1	1	1	1	0	0	0	1	2	4	261	276
2009.06.21	新人教育プロ1年次研修会	理学療法と関連法規(介護保険含む)	4	1	0	0	0	0	0	1	1	2	4	264	277
2009.06.21	新人教育プロ1年次研修会	症例検討I	4	0	1	0	1	0	0	0	2	4	6	261	279
2009.07.26	第1回講習会	「嚥下障害に対する理学療法～臨床評価を中心に」	7	2	0	2	2	2	2	8	5	22	4	10	66
2009.09.05	平成21年度環境支援部研修	「住宅改修に関する基礎知識」	8	1	3	2	1	1	0	8	2	5	5	8	44
2009.09.06	2年次新人教育プログラム研	理学療法の研究方法論	7	3	0	0	2	2	1	11	9	17	129	0	181
2009.09.06	2年次新人教育プログラム研	人間関係および労働衛生	7	3	2	1	1	1	0	14	8	17	130	0	184
2009.09.06	2年次新人教育プログラム研	生活環境支援	8	2	1	0	0	0	1	13	9	17	134	0	185
2009.09.06	2年次新人教育プログラム研	社会の中の理学療法	7	2	1	0	0	0	2	13	13	19	135	0	192
2009.09.06	2年次新人教育プログラム研	症例検討II	3	0	0	0	0	0	1	15	8	16	132	0	175
2009.09.12	第28回関東甲信越PT学会	教育プログラム「Clinical Reasoning I(神経系)」	0	0	0	1	0	1	0	1	1	2	2	0	8
2009.09.12	第28回関東甲信越PT学会	教育プログラム「Clinical Reasoning II(骨関節系)」	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	1	0	6
2009.09.12	第28回関東甲信越PT学会	教育プログラム「Clinical Reasoning III(内部障害系)」	0	0	0	1	0	1	1	1	1	3	3	0	11
2009.09.12	第28回関東甲信越PT学会	教育講演「認知症の正しい理解と脳活性化リハビリ」	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	3
2009.09.13	第28回関東甲信越PT学会	特別講演I「スポーツ用義肢の現状と課題～北京」	0	0	0	1	0	1	1	0	1	2	3	1	10
2009.10.02	第44回PT協会全国学術研	ベーシック(基礎)セミナー4「物理療法のEBM」	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
2009.10.02	第44回PT協会全国学術研	生活環境支援系専門領域研究部会「血管原性こ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
2009.10.02	第44回PT協会全国学術研	海外特別講演(1)「前庭系の理学療法」(2)「バラン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2009.10.02	第44回PT協会全国学術研	クリニカル(臨床)セミナー2「心不全に対する理学療	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3	2	8
2009.10.03	第44回PT協会全国学術研	ベーシック(基礎)セミナー8「理学療法士の職域協	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	4
2009.10.03	第44回PT協会全国学術研	クリニカル(臨床)セミナー6「エビデンスに基づく理	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
2009.10.03	第44回PT協会全国学術研	クリニカル(臨床)セミナー8「理学療法士ができる存	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	5
2009.10.03	第44回PT協会全国学術研	クリニカル(臨床)セミナー7「地域生活のひろがり」	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
2009.10.03	第44回PT協会全国学術研	クリニカル(臨床)セミナー9「職場の中でのコミュ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
2009.10.03	第44回PT協会全国学術研	ポストセミナー「地域生活のひろがりに着目した介護	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	4
2009.10.18	平成21年度臨床実習教育部	実習レポートのあり方・使い方	6	1	2	2	1	1	1	5	0	2	1	0	22
2009.11.29	第2回講習会	「患者本位の動作分析～機械の目の生かし方～」	8	1	4	1	1	0	3	7	14	29	29	41	138
2009.12.06	3年次新人教育プログラム研	理学療法士と保険制度	5	2	2	1	1	3	7	18	19	141	2	0	201
2009.12.06	3年次新人教育プログラム研	世界の理学療法	5	2	1	2	0	3	8	16	19	134	2	0	192
2009.12.06	症例検討発表		3	0	3	5	2	6	15	19	18	25	16	3	115
2009.12.13	第3回講習会	「根拠に基づいたパーキンソン病に対する総合アプ	13	2	2	2	1	3	2	15	9	20	27	24	120
2010.01.17	第4回講習会	「小児の摂食・嚥下指導～発達と指導の基本～」	16	0	0	1	0	1	0	3	3	10	0	7	41
2010.01.17	平成21年度会員ライフサポ	高齢者のシーティング	9	0	1	0	0	1	0	0	2	1	0	0	14
2010.02.14	リーダー研修会(2009)	「スタッフを育てるリーダーシップ」	3	1	2	0	3	1	3	4	5	10	1	0	33
2010.02.14	第16回神奈川県PT・OT地域	ケアネットワーク合同研究会	11	4	2	1	2	4	5	1	5	7	4	2	48
2010.02.28	平成21年度臨床実習教育部	臨床実習指導を通して得られたもの	5	0	1	2	5	5	10	24	17	50	0	0	119
2010.03.14	第27回神奈川県理学療法士	公開講座 患者志向～医療機関のスタッフとして果	4	0	0	3	5	5	7	13	18	40	45	54	194
2010.03.14	第27回神奈川県理学療法士	特別講演「あなた連携しませんか」	4	0	0	2	5	2	5	13	17	42	40	38	168
	理学療法士講習会(2009)	2009年度理学療法士講習会	0	0	0	0	0	0	4	0	1	6	2	2	15
	他県士会研修会等(2009)		0	0	0	1	2	2	0	6	6	12	9	1	39
	平成21年度臨床実習に関する	研修会(県士会主催外)	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4	0	0	6
	衛星放送)		0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	2	0	8

資料② 新人教育プログラム対象者および履修状況・修了書発行状況

神奈川県 士会員数	対象者数(S61以降入会)	
	2653名	
	経験年数3年未満	経験年数3年以上
2806名	619名	2034名

入会年度	人数	修了書 発行者	H21年度 登録者
S61 S63	89	61	0
H1 H5	163	97	0
H6	35	13	2
H7	47	18	1
H8	39	16	2
H9	70	23	1
H10	62	26	2
H11	96	43	3
H12	108	45	13
H13	115	42	8
H14	158	46	10
H15	150	25	7
H16	170	23	12
H17	191	39	21
H18	250	24	18
H19	291	21	21
計	2034	562	121

(平成22年3月末現在)

学術誌編集部

部長 山崎 哲司 (横浜市総合リハビリテーションセンター)
 部員 清水 美紀 (横浜市総合リハビリテーションセンター)
 齋藤 均 (横浜市立脳血管医療センター)
 柳田 憲光 (横浜市総合リハビリテーションセンター)
 福澤 賢 (横浜市総合リハビリテーションセンター)
 奥山 亜耶子 (横浜旭中央総合病院)

1. 会報、学会抄録集との合併号の企画・発行
『神奈川県理学療法士会・会報「技術と研究」第38号』
2. 第25回神奈川県理学療法士学会準備委員長と学会抄録集について連絡・調整
3. 企画・編集会議の開催
 - 第1回会議：年間予定の計画・確認、企画案の検討
 - 第2回会議：企画案・テーマの決定、執筆者の検討
 - 第3回会議：執筆者の決定、執筆依頼文の作成・発送
 - 第4回会議：原稿の校正作業、発送までの作業工程確認
 - 第5回会議：原稿のチェックと修正、レイアウトの確認
 - 第6回会議：第一稿校正依頼の発送作業
 - 第7回会議：第一稿のチェックと修正、レイアウトの確認
印刷所とレイアウトの打ち合わせ、見積りの依頼
 - 第8回会議：第二稿のチェックと修正、レイアウトの確認。発送作業の確認
 - 第9回会議：礼状、謝礼、製本、別刷りの作成と発送、反省会

査読委員会

委員長 萩原章由 (横浜市立脳血管医療センター)
 委員 内田賢一 (神奈川県立保健福祉大学)
 脇口恭生 (神奈川県立こども医療センター)
 木村充広 (横須賀共済病院)

1. 査読マニュアル作成
2. 『神奈川県理学療法士会 会報「技術と研究」』の6編の投稿原稿の査読審査
3. 会議開催 (2回)

臨床実習教育部

部長 坂本美喜 (北里大学医療衛生学部)
 部員 隆島研吾 (神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部)
 澤田明彦 (七沢リハビリテーション病院脳血管センター)
 米沢昌宏 (鶴巻温泉病院)
 熊木由美子 (横浜市立脳血管医療センター)

笠原西介 (聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院)
染川典子 (森の里病院)

1. 臨床実習教育ワークショップ

日時：2009年10月18日(日) 13:00~16:00 場所：鶴巻温泉病院 参加人数：36名

内容：テーマ「実習レポートのあり方・使い方」

- ・司会：澤田 明彦氏 (七沢リハビリテーション病院脳血管センター)
熊木由美子氏 (横浜市立脳血管医療センター)
- ・パネリスト：山坂奈々子氏 (横浜船員保険病院)
山口 泰成氏 (森の里病院)
舩山日出樹氏 (国際医療福祉大学)
菅原 憲一氏 (神奈川県立保健福祉大学)

2. 臨床実習に関する講習会の開催

*神奈川県委託事業として、臨床実習指導者研修会を開催した。

日時：2009年2月28日(日) 13:00~15:00 場所：北里大学 参加人数：119名

内容：テーマ「臨床実習をとおして学んだこと」

- ・講師 坂本 美喜氏 (北里大学)
染川 典子氏 (森の里病院)

学術大会部

部長 眞保 実 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校)
部員 田中 一秀 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校)

1. 第27回神奈川県理学療法士学会準備委員会および学会当日運営への部員派遣
2. 第28回神奈川県理学療法士学会長の選任
学会開催地として川崎地区に依頼し、長田 正章氏 (川崎幸病院中原分院) を学会長に推薦した
3. 第29回以降の開催地決定に関する事務手続きの検討
4. 部会の開催 2回実施

局に属さない部・委員会

規約審議委員会

委員長 植松 豊子 (川崎市立井田病院)
委員 宿田 友子 (川崎市立病院)
黒田 有紀 (川崎市立井田病院)

1. 組織改正に伴う分掌規程の見直し
2. その他、規約に関すること

表彰審査委員会

委員長 磯部貴光 (七沢リハビリテーション病院脳血管センター)

1. 神奈川県公衆衛生協会会長表彰推薦
2. 日本理学療法士協会賞受賞者候補者推薦 (該当者なしで処理)
3. 神奈川県保健衛生表彰推薦
4. 関東甲信越ブロック協議会賞推薦

IT化推進委員会

委員長 澤田 明彦 (七沢リハビリテーション病院脳血管センター)
委員 佐藤 満 (昭和大学保健医療学部)
延藤実穂(横浜市立脳血管医療センター)
山村 孝司 (横須賀共済病院)
田中 健康 (七沢リハビリテーション病院脳血管センター)

1. インフラ関連の整備
セキュリティ保持：SSL 認証サービスの継続契約によりサーバのセキュリティを維持した。
2. ウェブページ (<http://www.pt-kanagawa.or.jp>) 管理の引き継ぎ
ウェブページ管理・運営に関してウェブサイト管理部への引き継ぎを行った。
3. 学術誌等印刷発行物電子化に関する検討
学術誌等印刷発行物電子化に関して検討を行った。

組織検討委員会

委員長 萩原利昌 (川崎市百合丘障害者センター)
委員 秋田 裕 (横浜市総合リハビリテーションセンター)
隆島研吾 (神奈川県立保健福祉大学)
斎藤幸広 (藤沢市民病院)

つぎの答申を報告しました。

平成21年12月12日

社団法人神奈川県理学療法士会長 様

組織検討委員会
委員長 萩原利昌

組織のあり方について (答申)

社団法人神奈川県理学療法士会組織のあり方について検討を行いましたので、次のとおり答申します。

(社) 神奈川県理学療法士会組織のあり方について(答申)

1 はじめに

神奈川県における理学療法士国家資格所持者の団体は、(社) 日本理学療法士協会神奈川県支会として、1970年(昭和45年)に任意団体として設立されました。(第3回定期総会において、社団法人日本理学療法士協会神奈川県士会に改称) 当時の会費は500円、予算額は6万円であったとされています。

この間、理学療法士の社会的地位向上を目指し活動する中で、各種講習会開催に加え、神奈川県理学療法士学会の開催(第1回1983年、以降毎年開催)、第14回および第28回日本理学療法士学会、第21回日本理学療法士協会全国研修会開催を担当するなど、県内で一定の知名度を得られるこ

ととなっています。

また、各都道府県士会が独自に都道府県単位の法人設立許可を受け、社団法人格を取得する動きが加速し、本会においても神奈川県当局との長期にわたる折衝の結果、1996年（平成8年）3月、法人設立総会を挙行することとなり、専用事務所を持つ公的に認知された団体としての歩みをスタートすることとなりました。

それまでの本会組織は、社団法人格を取得するに耐えられるものとなることが至上命題であり、また、療養型病床の新設等、医療サービスの多様化の兆しと、老人保健法による診療報酬理学療法料の一物二価制の導入や地域保健法改正と老人保健事業の普及、介護保険制度の施行等、社会的変革の中で、本会が活動する社会全体の情勢に求められる形で組織を変革してきました。

しかし、一人前の社会に認められた団体となることは、まがりなりにも既に達成されており、法人設立10周年を通過したこの時期に、今後の本会組織のあり方を見直し、将来の組織を展望する必要性が高まっているものと考えられます。

また、数年前の社団法人日本理学療法士協会総会は出席者および委任状が必要数に達することができず流会となりました。このことは決して本会に関係のない対岸の火事として見過ごすことはできません。

新入会員数の急激な増加は、一方で本会に対する帰属意識の低下を招く危険性をほらみ、また、多くの若い会員の声を吸い上げられない旧態依然とした組織運営に陥る可能性も併せて危惧されるところです。このため、本会がたどってきた歴史的経過を十分に踏まえたうえで、現状で抱える課題を明確にし、積極的に社会に理学療法士をアピールできる組織強化・再編整備が求められているものと考えられます。

2 組織整備過程上の課題

運営に携わった立場で考えると、組織の全体像を捉える努力を怠ってきたわけではありませんが、どうしても行わなければならない事業が組織内外から発生し、これに対応した組織を既存の組織に横出しする形で現在に至っていることは事実です。

このことは今後も十分にあり得ることですが、本会として今展望しておかなければならないことは、組織全体が理学療法士の団体として必要とされている枠組みを備えていることです。過去の経緯の中で局制をとることにより機能別組織の編成は一部達成されていると思われませんが、より、効果的運用が図られるよう再度の見直しが必要と考えられます。

ただし、本会は神奈川県から設立許可を受けた公益法人であり、公益性の高い団体としての組織のあり方についても忘れてはならない側面と考えられます。

また、本会の設立目的や事業は定款により規定されており、前述した公益法人としての組織運営とも関連し、組織運営や組織強化のために考慮しなければならない点といえます。本会が行うべき事業は、定款において次のとおり定められています。

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 理学療法の専門的知識及び技術を広く県民に普及・啓発する事業
- (2) 理学療法相談に関する事業
- (3) 理学療法技術の支援に関する事業
- (4) 理学療法士の学術技能の向上に関する事業
- (5) 理学療法に関する刊行物の発行及び広報に関する事業
- (6) 理学療法の調査・研究に関する事業
- (7) その他この法人の目的を達成するための事業

各事業を簡略化すると、(1) 普及・啓発事業、(2) 相談事業、(3) 技術支援事業、(4) 学術技能向上事業、(5) 広報事業、(6) 調査研究事業となり、現行組織に当てはめて再配置すると以下のとおりとなります。

事務局 (2) 相談事業、(5) 広報事業、
社会局 (1) 普及・啓発事業、
学術局 (4) 学術技能向上事業

一部は、相当な実績をあげる事ができており定着しているものと考えられますが、(3) の技術支援事業と(6) の調査研究事業が不十分な実施に終わっており、担当組織が不明確な状況に留まっているものと考えられます。ただし、(3) の技術支援事業については、主に社会局を中心に神奈川県作業療法士会と協同して実施を積み上げている他職種向け研修があたるものと考えられ、結果的に未着手に近い状況にあるものは、(6) の調査研究事業であるといえます。一方で、昨年度初めて女性のライフサポートの視点から全県的な調査研究が実施されたことは明るい兆しといえますが、本会として調査研究事業を組織的にどのように展開していくのかの方向性を打ち出すまでには至っていません。

課題の整理

定款第4条の(3) 理学療法技術の支援と、(6) 理学療法の調査・研究に関する事業を実施する体制が不明確である。

3 会員の声が届く組織強化に向けた課題

公益性の高い、神奈川県で唯一の理学療法士の団体として求められる組織のあり方とともに、本会の実態としての組織を形作っているのは一人一人の会員（法人としては社員）であることも忘れてはなりません。また、年々新規入会会員数は増加傾向にあり、平成19年度の入会者数は300名近くにのぼっています。

このため、組織の見直しに当たっては、会員の声を反映させる手立ても考慮しなければなりません。検討するに当たっては、会員の声の分類を次のように整理して検討することが必要と考えられます。

経験年数と理学療法分野における分類

- (1) 経験3年以下の比較的経験の浅い会員に対する対応
- (2) 経験4年以上の、ある程度目指している理学療法分野が見え始めている会員への対応

地域的な分類

- (3) 役員が把握できていない地域の会員への対応

理学療法分野ごとの会員への対応

- (4) 急性期理学療法
- (5) 回復期リハビリテーション病棟での理学療法
- (6) 老人保健施設での理学療法
- (7) 訪問系理学療法
- (8) 理学療法基礎系（専門領域分野）
- (9) 神経系理学療法（専門領域分野）
- (10) 骨関節系理学療法（専門領域分野）
- (11) 内部障害系理学療法（専門領域分野）
- (12) 生活環境支援系理学療法（専門領域分野）
- (13) 物理療法系（専門領域分野）
- (14) 教育・管理系理学療法（専門領域分野）

現状では、経験年数に関する(1)、(2)については、学術局において、(社)日本理学療法士協会の新人教育プログラムにのっとり確実に実施されているものと認められます。また、(3)については、選出された本会役員が神奈川県内のどの地域に属しているかに大きく影響されているものと思われます。併せて(4)～(7)の職域や所属する機関の分類によるものについても、役員の所属がどの分野であるかに左右され、本会の運営の方向性を限られたものに限定してしまう危険性ははらんでいるものと考えられます。専門領域分野の(8)～(14)については、一部が(社)日本理学療法士協会専門領域研究部会として神奈川県内で開催された実績が認められますが、本会の積極的な関わりは薄いものと思われます。

課題の整理

- | |
|---|
| (3)の役員が把握できていない地域の会員への対応が不十分である。
(4)～(7)の職域ごとのネットワーク構築と意見の集約が不十分である。
(8)～(14)の理学療法専門領域については、各分野ごとのネットワークの必要性和本会組織としての役割について検討する必要がある。 |
|---|

4 組織強化に向けた展望

(1) 定款第4条に対応した組織の見直し（局制の見直し）

これまでの整理された課題を踏まえ、本会組織強化を柱に組織の見直しを行う場合の視点は、以下のように整理できます。

『本会組織運営の維持』

『定款に基づく公益事業の推進』

『専門領域を視野に入れた学術研修の推進』

『多様な職域や社会情勢の変化に対応した職域や身分の確保』

また、組織の見直しに当たっては本会組織の枠組みである局制そのものから見直す必要があるものと思われます。

提言1

事務局（本会組織運営の維持）、 公益事業局（定款に基づく公益事業の推進）、 学術研修局（専門領域を視野に入れた学術研修の推進）、 職能整備局（多様な職域や社会情勢の変化に対応した職域や身分の確保）の4局制による組織強化を実施する必要があります。また、職能整備局内に職域の拡大や身分の確保のための調査研究部を設置し、定款との整合性を取る必要があります。
--

(2) 地域的枠組みによる組織の見直し

安定して地域の会員の声を吸い上げられる仕組みが必要とされています。しかし、すぐに県内をブロック化してブロック代表を選出するには、実態としてのブロック組織や公平な選出手順の担保など

多くの問題を抱えています。一方で、これまで開催してきた神奈川県理学療法士学会準備委員会及び運営委員会のブロック組織は、学会終了後、本会の総会議長団における役割を果たすのみで有効な活用ができていません。

提言2

過去に開催された神奈川県理学療法士学会組織や地域学術サークル組織をもとにブロック相談役を置く必要があります。また、年に1～2回のブロック相談役を含めた拡大理事会等の開催により、地域の会員の声を本会事業に反映させる必要があります。

ブロック相談役を含めた拡大理事会を通じて、実態のあるブロック化に向けた準備を進める必要があります。

(3) 職域ごとのネットワーク構築と意見の集約のための見直し

多様な医療機能や介護保険サービス、市町村保健事業に対応するため、それぞれの職域に対応した組織が必要とされています。

期待される役割は、それぞれの職域ごとのネットワークを構築すること、本会として取り組むべき課題の提示、それぞれの職域ごとの調査分析等が挙げられます。

この意味で、組織の所属は職能整備局が望ましいと思われれます。

提言3

職能整備局に職域ごとの検討委員会を設置し、職域ごとの解決すべき課題や活動の方向性を本会事業に反映させる必要があります。

例としては、回復期リハビリテーション検討委員会、老人保健施設理学療法検討委員会、訪問系理学療法検討委員会等が挙げられます。

また、診療報酬部、介護保険報酬部設置等の理学療法士身分の確保に関する対策の必要性があります。

(4) 専門領域ごとの組織設置の必要性を検討

専門分化する理学療法領域に対応するため、各領域のコアとなる組織を整備する必要があります。

例として以下のテーマが考えられます。

ア 学術研修局に理学療法専門領域推進部を設置する。

イ 理学療法専門領域推進部に専門分科会を設置する。ただし、(社)日本理学療法士協会において専門領域研究部各分会の分野について見直しを行っていることも考慮に入れる必要があること。

現行の例としては以下が考えられます。

○理学療法基礎系分科会

○神経系理学療法分科会

○骨関節系理学療法分科会

○内部障害系理学療法分科会

○生活環境支援系理学療法分科会

○物理療法系分科会

○教育・管理系理学療法分科会

ウ 専門分科会は各専門領域におけるトピックスや最新の知見を会員にフィードバックする。

エ 専門分科会は、(社)日本理学療法士協会専門領域研究部各分会に関連した事業で、本会に関係する業務を行う。

オ 専門分科会は理学療法専門領域推進部とともに本会の運営、特に研修の運営に協力する。

提言4

学術研修局において、理学療法専門領域を視野に入れた組織検討の必要性があります。

5 結語

本答申は、この間の組織検討に係る意見聴取をもとに今後の組織強化のあり方を示したものである。一方で、社団法人組織としての健全な運営は、収入に応じたものであるべきであり、力量を超えて組織が肥大化していくことは避けなければならない。反対に最近のマスコミで取り上げられている特定の団体にあるように、過剰な収益をあげ、その会計処理が不明朗になるようなことは決してあってはならないことである。組織強化の前提に健全な組織運営があることを忘れてはならない。

今後も国家資格取得者が劇的に増加していくことが予想される状況を踏まえ、今後の本会運営にあたっては、これまでの組織形態にとらわれることなく新たな組織の展開に決意を持って当たることを切望するところである。

最後に、今回の提言には含まれていないが、聴取した意見の中に、組織運営に関する知識・経験の継続性を危惧するものもあった。役員等で長年努めた理事者が退任する場合など、蓄積された知識や経験の移行をどのように図るべきかは、今後に残された課題として指摘しておくこととする。

選挙管理委員会

委員長 南谷 晶 (東海大学医学部附属病院)
委員 東福寺 規義 (東海大学医学部附属病院)
大橋 恭彦 (伊勢原協同病院)

1. 平成22年3月14日 社団法人神奈川県理学療法士会 役員選挙

第27回神奈川県理学療法士学会

学会長	黒水 俊吾 (大船中央病院)
準備委員長	根本 敬 (湘南鎌倉総合病院)
学会担当理事	湯田 健二 (海老名総合病院)
学術大会部	眞保 実 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校)
	田中 一秀 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校)
総務部	宮川 雅孝 (清川病院)
	竹内 麻耶 (清川病院)
運営部	五家 章伸 (大船中央病院)
財務部	小山 理恵子 (聖テレジア病院)
演題審査部	一條 幹史 (湘南鎌倉総合病院)
	遠藤 辰弥 (湘南鎌倉総合病院)
	土屋 元明 (湘南鎌倉総合病院)
学術編集部	田中 宇徳 (聖テレジア病院)
会場運営委員	桑島 泰輔 (湘南鎌倉総合病院)
	島田 蔭 (大船中央病院)
	井口 優子 (聖テレジア病院)
	丸岡佐知子 (清川病院)
	遠山 弘子 (大船中央病院)
	黒岩 澄志 (大船中央病院)
	関田 真知子 (大船中央病院)
	小西 ゆか梨 (大船中央病院)
	鈴木 健太 (大船中央病院)
	安藤 汐海 (大船中央病院)
	瀬戸 佳代子 (大船中央病院)
	鬼村 優一 (介護老人保健施設かまくら)
	瀧川 美希 (川島整形外科)
	鈴木 裕 (川島整形外科)
	鷺見 佳子 (川島整形外科)
	酒井 康友 (清川病院)
	小林 伸 (在宅リハビリ訪問看護ステーション TOMO)
	大泉 武志 (湘南厚木病院)
	高木 三憲 (湘南鎌倉総合病院)
	増田 真希 (湘南鎌倉総合病院)
	西川 優美 (湘南鎌倉総合病院)
	三浦 史子 (湘南鎌倉総合病院)
	臼杵 江梨子 (湘南鎌倉総合病院)
	栗原 大輔 (湘南鎌倉総合病院)
	矢部 瑞穂 (湘南鎌倉総合病院)
	亀山 優行 (湘南鎌倉総合病院)
	北村 将人 (湘南鎌倉総合病院)
	伊野部 直子 (湘南鎌倉総合病院)
	塚田 浩庸 (湘南鎌倉総合病院)
	森戸 麻美 (湘南鎌倉総合病院)
	杉浦 藍 (湘南鎌倉総合病院)
	池田 崇 (湘南鎌倉総合病院)
	正保 哲 (湘南鎌倉人工関節センター)
	松平 千賀子 (湘南記念病院)
	仲松 真広 (湘南記念病院)
	下地 翔馬 (湘南記念病院)

櫻井 由紀野 (聖テレジア病院)
 菅原 悠子 (聖テレジア病院)
 山本 裕子 (聖テレジア病院)
 奈倉 和未 (聖テレジア病院)
 三ヶ田 翠 (聖テレジア病院)
 中島 篤 (聖テレジア病院)
 今子 博貴 (聖テレジア病院)
 名村 早織 (聖テレジア病院)
 糸井 孝文 (聖テレジア病院)
 金丸 瑞江 (聖テレジア病院)
 熊澤 照幸 (聖テレジア病院)
 末政 友佳子 (聖テレジア病院)
 成田 慎一 (特別養護老人ホームふれあいの泉)
 (順不同)

第27回神奈川県理学療法士学会を下記のとおり開催した。

1. 開催日時 : 2010年3月14日(日) 開会10時 閉会18時10分
2. 開催場所 : 鎌倉芸術館
3. 学会テーマ : 「JOINUS—連携・・・していますか?」
4. 参加人数 : 468名(会員444名、会員外11名、学生10名、一般3名)
5. 後援 : 神奈川県、鎌倉市
6. 学会案内 : 神奈川県理学療法士会ニュース、学会ホームページ、
県内会員施設へのポスター、チラシ配布
7. 公開講座 : 「患者志向 ～医療機関のスタッフとして果たすべき役割～」
宮城 由紀夫氏(オフィス・ミヤギ)
8. 特別講演 : 「あなた連携しませんか」
隆島 研吾氏(神奈川県立保健福祉大学)
9. 一般演題 : 71演題(口述発表15演題、ポスター発表56演題)
10. その他 : 県内学術サークルポスター展示紹介(11団体)

公益法人対策委員会

委員長 山口 泰成(森の里病院)
 委員 神内 擴行(横浜リハビリテーション専門学校)
 秋田 裕
 隆島 研吾(神奈川県立保健福祉大学)
 畠中 泰司(横浜市立大学附属病院)
 林 克郎(横浜リハビリテーション専門学校)
 炭 孝昭(太田総合病院)
 広瀬 好郎(七沢リハビリテーション病院脳血管センター)
 大槻 かおる(大和市立病院)

2009年度 第2回理事会(2009年6月13日)前に、会議として神奈川県理学療法士会公益法人対策委員会の活動を始めた。

主な内容は、公益法人への移行に向けた情報報告および各種研修会の報告であった。

9月19日の理事会後に日本理学療法士協会の事務次長 小野田氏により協会の公益法人移行スケジュールの説明会が開催され、役員への周知徹底が行われた。

その後、公益法人に関する勉強会への参加等積極的に行われるようになった。

<出席した主な研修会>

公益法人勉強会

日時:2010年2月18日(木) 13:00~16:00 場所:鶴見区会館 主催:(株)アイパートナーズ

新公益法人制度に関する説明会

日時:2010年3月10日(水) 14:00~16:40 場所:かながわ県民センター

主催:神奈川県保健福祉部福祉監査指導課

第 49 回日本理学療法学術大会誘致対策委員会

大会長	長澤 弘(神奈川県立保健福祉大学)
副大会長	秋田 裕
準備委員長	小西 聡宏(横浜市立大学附属病院)
事務局長	上杉 上(横浜市立大学附属病院)
会計	島津 尚子(横浜市立大学附属病院)
	堤 美恵(横浜市立脳血管医療センター)
	植木 琢也(横浜市立脳血管医療センター)
企画・運営	横山 仁志(聖マリアンナ医科大学病院)
	河辺 信秀(横浜船員保険病院)
	小山 理恵子(聖テレジア病院)
	佐藤 史子(横浜市総合リハビリテーションセンター)
	菅原 憲一(神奈川県立保健福祉大学)
	中村 大介(昭和大学保健医療学部)
	鍋島 香峰子(七沢リハビリテーション病院脳血管センター)
	山口 泰成(森の里病院)
	佐藤 春彦(北里大学医療衛生学部)

1. 日本理学療法学術大会誘致対策委員会の開催 (5 回)
2. 日本理学療法士協会理事会での立候補説明会に出席
3. 第 49 回大会開催決定後、日本理学療法学術大会準備委員会を発足
4. 第 49 回日本理学療法学術大会準備委員会の開催 (3 回)
5. 第 27 回神奈川県理学療法士学会において第 49 回日本理学療法学術大会報告